

日農口ロックス

[リニュロン水和剤]

農林水産省登録 第22896号

有効成分 リニュロン…50.0%

性状 類白色水和性粉末 45μm以下

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称） 危険物：- 有効年限：4年 包装：100g×60、300g×40 RACコード：除草[5]

特長

- 畑地一年生雑草全般、特に広葉雑草に効果の高い茎葉兼土壌処理除草剤です。
- 効果の持続期間が長く、長期間雑草の発生を抑制します。

効果、薬害等に関する注意事項

- 本剤の所定量を10a当たり、70～150リットルの水に加え、十分かきまぜてから均一に散布する。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合があるので、時期を失しないように散布する。
- 砂質で水はけのよい畑では薬量を控えめにする。激しい降雨が予想されるときには使用をさける。
- 覆土が薄いと薬害がでやすいので覆土はできるだけ細かく砕いて均一厚目に行なう。
- マルチ栽培、トンネル栽培等での使用は薬害を生じるおそれがあるので、さける（かんしょ、にんにくのマルチ栽培を除く）。
- 砂土では使用しない。
- アスパラガスの畦間株間処理に使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、擬葉にかからないように散布する。
- 雑草茎葉兼土壌散布では、本剤の散布適期は雑草生育期であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失しないように散布する。
作物名／雑草の草丈
だいず、えだまめ／15cm以下
アスパラガス、かんしょ／10cm以下
- 高畦栽培のかんしょに使用する場合、無マルチ栽培の苗移植前処理では効果が低下することがあるので使用をさける。
- ねぎの雑草茎葉散布又は全面散布で使用する場合、展着剤との混用及び7日以内の近接散布は薬害を生じることがあるのでさける。
- にらに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、本圃の定植後に使用する。
- セルリー、やまのいも及びかんしょに使用する場合、薬液がかかると薬害を生じるので、作物にかからないように畦間に散布する。
- にんじん及びセルリーに使用する場合、高温時は薬害が生じるおそれがあるので使用しない。
- にんじんの生育期に使用する場合、品種により薬害を生じることがあるので、事前に使用品種における薬害の有無を確認する。
- とうもろこしに使用する場合、スーパースイート系では薬害を生じることがあるので使用をさける。
- たらのきに使用する場合、穂木にかからないように散布する。
- だいず及びえだまめの畦間株間処理に使用する場合、専用ノズルを使用する。また、噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する。

- ごまに使用する場合、水田転換畑など過湿になりやすいほ場、土壌が固まりやすいほ場など苗立ちが良くない条件では苗立ちがさらに不良となるおそれがあるので、登録範囲内の低めの薬量で使用する。
- 蚕に対して影響があるので、桑葉にはかからないようにする。
- 使用后、容器や散布器具は必ず水で十分に洗う。
- 散布器具や容器の洗浄水は河川等に流さず、環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

■ 安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布の際は、農薬用マスク、手袋、長ズボン長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 誤食などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には、吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。使用中に異常を感じた時は直ちに医師の手当を受ける。

■ 水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	リニュロンを含む農薬の総使用回数	
			薬量	希釈水量				
りんご もも かき	一年生雑草	雑草発生前～発生始期 但し、収穫30日前まで	300g /10a	70～ 150ℓ /10a	1回	全面土壌散布	1回	
なし		雑草発生前～発生始期 但し、収穫90日前まで						
麦類(秋播)		は種後～発芽前 (雑草発生前～発生始期)	100～200g /10a		1回	雑草茎葉兼土壌散布 (畦間・株間処理)	2回以内(全面土 壌散布は1回以 内、雑草茎葉兼 土壌散布は1回以 内)	
だいず えだまめ		は種直後～出芽前 (雑草発生前～発生始期)			1回			
いんげんまめ		は種直後	100～150g /10a		1回	全面土壌散布	1回	
べにばないんげん		は種後出芽前 (雑草発生前)	75～100g /10a					
らっかせい		は種直後	100～200g /10a					
とうもろこし								
飼料用とうもろこし		は種直後 (雑草発生前)	1回					
ソルガム		は種直後						
にんじん	にんじん3～5葉期 但し、収穫30日前まで (雑草発生始期)	100～150g /10a	1回	2回以内(は種直 後は1回以内、に んじん3～5葉期 は1回以内)				
かんしょ	一年生広葉雑 草	種いも植付後萌芽前まで	200g/10a	1回				2回以内(全面土 壌散布は1回以 内、雑草茎葉兼 土壌散布は1回以 内)
		苗移植前まで	150～200g /10a					
ばれいしょ	一年生雑草	植付直後～萌芽前	100～200g /10a	1回				全面土壌散布
さといも こんにやく		植付直後						
やまのいも		生育期 但し、収穫60日前まで (雑草発生前～発生前期)		2回以内	畦間土壌散布	2回以内(粒剤は1 回以内)		
		植付直後			全面土壌散布	2回以内		
やまのいも(むかご)	生育期 但し、収穫60日前まで (雑草発生前～発生前期)	畦間土壌散布						

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	リニュロンを含む農薬の総使用回数			
			薬量	希釈水量						
アスパラガス	一年生雑草	萌芽前 (雑草発生前～発生始期)	150～200g /10a	70～150ℓ /10a	1回	全面土壌散布	2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)			
		萌芽始期 但し、収穫前日まで (雑草発生前～発生始期)		100～150ℓ /10a						
一年生広葉雑草	生育期 但し、収穫前日まで (雑草生育期)	100ℓ /10a		1回	雑草茎葉兼土壌散布(畦間・株間処理)					
にんにく	一年生雑草	植付前 (マルチ前) (雑草発生前)	100～150g /10a	70～150ℓ /10a	1回	全面土壌散布	1回			
ねぎ(露地栽培)		定植後 但し、収穫30日前まで (雑草発生前)				畦間土壌散布				
	一年生広葉雑草	定植30日後以降 中耕培土後 但し、収穫30日前まで (雑草発生揃期)				75～150g /10a		100ℓ /10a	雑草茎葉散布又は全面散布	
あさつき	一年生雑草	植付直後～萌芽前 (雑草発生前～発生始期)	150g /10a	70～150ℓ /10a	1回	全面土壌散布	3回以内 (種球植付後は1回以内、生育期は2回以内)			
いら		収穫30日前まで (雑草発生前)	100～150g /10a							
らっきょう		種球植付後 (雑草発生前)	150g /10a			畦間土壌散布				
		生育期 但し、収穫30日前まで	2回以内			全面土壌散布				
セルリー		定植後 但し、定植7日後まで (雑草発生前)	100～150g /10a			1回		1回		
とうき		中耕・培土後 但し、収穫120日前まで	100g /10a			2回以内		畦間土壌散布	2回以内	
たらのき		中耕・培土後 (雑草発生前)								
食用ゆり わさびだいこん		植付後萌芽前 (雑草発生前～発生始期)	100～150g /10a			1回		全面土壌散布	1回	
みつば		は種後出芽前 (雑草発生前)								
はっか		収穫120日前まで	100g /10a							
おうぎ		は種後出芽前 (雑草発生前)	100～150g /10a							
ごま			100～200g /10a							100ℓ/10a
桑		4～10月	100g /10a							70～150ℓ /10a
そば		は種後出芽前 (雑草発生前)								

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	リニュロンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
えごま(種子)	一年生雑草	本葉5葉期以降 中耕後 但し、収穫90日前まで (雑草発生前)	100g /10a	100ℓ /10a	1回	畦間土壌散布	1回

製品写真



最新の登録内容はこちら

